

地域が支える
舟渡小の教育

令和8年3月発行
100号スペシャル



HP開設
学校も町も
行事日程を
全部載せます！

板橋区立舟渡小学校 学校支援地域本部

学校支援ボランティア情報

地域コーディネーター運営委員 広報担当

100号記念 インタビュー



今回はボランティア情報誌100号を発行するにあたり、長年にわたり小学校のボランティア活動に尽力されている2名の地域ボランティアの方に、貴重なお話を伺いました。地域と学校、子どもたちを繋ぐ活動の魅力や、長く続ける秘訣について深掘りしていきます。

●田中豊子さんは、本の読み聞かせグループに所属しており、舟渡小学校でも読み聞かせがきっかけでボランティアに参加されるようになりました。家庭科支援ではミシンや調理実習、漢検でも子どもたちの見守りをさせていただいたり、数年前からは毎週月曜日に1年生、2年生のクラスに入って子どもたちを見守っていただいています。

●増山新一さんは、学校で知らない人はいないと思いますが、お花や植木などの植栽、水やりを始め、思いもしない物から、新しい物を作りだしたり、課外授業の時は先頭を歩いて私たちが導いてくれます。ボランティア活動以外に学童擁護員として子どもたちの通学時の見守り、日曜日の校庭開放のご担当でもあります。

Q: ボランティア活動を舟渡小学校でスタートするきっかけは?

田中さん: 本の読み聞かせのグループに入っているのですが、どこかで活かしたいと思っていたところ舟渡小学校でボランティアをしている人から繋がりました。以前の校長先生から1年生の補助・サポートに入ってほしいと頼まれ始めました。

増山さん: 学童擁護員になり、学校に来る機会が多くなり、

舟渡小では自分の今までの経験が全部活かせそうで、こんなに自分に合う場所はない、と思って始めました。

Q: ボランティア活動していて、良かったと思うことは?

田中さん: 子どもたちと触れ合うことで、自分自身に元気をもらえることが良かったことです。

増山さん: 学校の外でも「増山さん!」と声をかけてくれる子どもたちが大勢いることです。このことは、町内での防犯にもなると思います。

Q: ボランティア活動をしていて、日常の変化はありますか?

田中さん: 学校にいと、自分の勉強になります。授業を聞いていても、先生が子どもたちを叱る時も「こんな風に伝えるんだ。」と、とても考えさせられます。

増山さん: ボランティアする日に向けて体調を整えておきたいので、規則正しい生活をするようになりました。そして、スケジュールをたてるようになりました。

Q: 舟渡小学校はお二人にとってどんな場所?

田中さん: 子どもたちや先生方に見られていると思うと、シャキッとします。そして、学校に来たいので健康に気をつけています。

増山さん: 先生たちを息子や娘、若い先生方は孫のような気持ちで接しています。子どもたちはひ孫かな。家族のような雰囲気です。

お二人: 同世代の人たちと話していると、ネガティブになってしまうけれど、学校で先生や子どもたちと話していると、「未来」が見えます。先生方が自分たちを歓迎してくれていることが、とても有難いです。

Q: 最後に、これからの目標を教えてください。

田中さん: 健康に気をつけて、元気であることです。

増山さん: 舟渡小学校創立100周年でタイムカプセルを開ける時に、その場で立ち会うことです。

田中さん、増山さん、とても楽しい、舟っ子を想う気持ちのこもったお話ありがとうございました。これからもよろしくお祈りします。

3・4年生席書会



1月13日に3年生、4年生の席書会がありました。

3年生は初めての席書会でした。少し準備に手間取った子どももいましたが、順調に始めることができました。4年生は2回目ということもあり、手際よく準備を始め、各自のペースで書き始めました。字をバランスよくきれいに書くことはとても難しいですが、自分なりに一生懸命がんばっていました。上手にかけて最高傑作！と自画自賛したり、書き始める前から上手く書けるか心配していたり、自分の名前が上手に書けたと喜んでいたり…すべてのことに一喜一憂しながら、全力で取り組んでいました。そして3年生も4年生も片付けまでしっかりやり遂げました。



上手に書けた子ども、ちょっと納得いかなかった子どももいましたが、子どもたちのがんばりはステキでした。

(地域コーディネーター 植草 真理子)

(地域コーディネーター 植草 真理子)

2年生 蓮根図書館見学



1月15日、2年生のこどもたちと蓮根図書館に社会科見学に行ってきました。小学校を9時に出発し、晴天に恵まれた新河岸川の川べりの舟渡水辺公園の遊歩道を通り、約30分歩いて蓮根図書館に到着しました。

蓮根図書館の職員2名の方が出迎え、AグループとBグループに分かれた子どもたちを、Aグループは視聴覚室で館長さんが図書館についての質問に対して受け答える「質問コーナー」を実施し、Bグループは、担当職員の方の案内に従って館内の各コーナーを見学しました。約40分後にAグループとBグループが入れ替わりました。

私は、職員の方々の説明に真摯に耳を傾けている子どもたちの態度に感心しました。また、視聴覚室で靴を脱いで説明を受講した際、整然と脱いだ靴が並んでいる情景を目にして、感激しました。流石、態度の良い舟っ子たちです！

(学童擁護員 上田 健一)



しゃべり場テラス

おひさまがあたりぼかぼかと暖かい日の開催でした。今回の卓上に飾られるお花は蠟梅(ろうばい)。梅に似ていて木の枝に黄色いお花をつけています。とてもいい香りです。毎回学校で咲いている花を当日の朝、増山さんが剪定して飾ってくれます。いつもそのお花が楽しみのひとつになっています。

今回は旗持ちの学童擁護員の方々が1番のりに来てくださいました。10時を過ぎた頃から、保護者の方がどんどん来店し、暖かかったのでテラスは満席になりました。みなさん、コーヒーを片手にお喋りを楽しんでいました。

しゃべり場テラスの開催が少なくなりましたが、また来年度もぜひ開きたいと思っています。コーヒー1杯100円、紅茶もお選びいただけます。どちらもおかわりフリーですので、みなさんゆっくりしにぜひいらしてください！お待ちしております。(地域ボランティア 保坂 里枝)



漢字検定



舟渡小で初めて漢字検定を実施してから8年目を迎えました。途中、新型コロナウイルス感染症の影響で2回中止となりましたが、毎年（年2回実施することもあります）恒例行事となっています。今年は1月31日に実施し、99名もの子どもたちがチャレンジしました。

漢字検定の実施には、多くのボランティアの方々にご協力いただいています。PTA、おやじの会、地域の方々には、子どもたちの試験監督、見守り、受付など、多岐にわたるサポートをお願いし、お陰様でスムーズに運営できております。心より感謝申し上げます。

今回は試験監督を担当された PTA の山下さんから、現場での心温まるエピソードをお寄せいただきました。子どもたちの様子が目に浮かびます。

（地域コーディネーター 江藤 睦実）

■名前や答案の書き忘れ 巡回中、答案用紙をチラッ

と見ると空欄がある受験生がいました。声をかけるわけにもいかないので、その子の近くを無意味にウロウロして、本人が「あ！」と気づくのを念じる「無言のプレッシャー作戦」を発動しました！

■漢字のゲシュタルト（形態）崩壊

巡回中に受験生が書いている漢字を（逆さまから）眺めていると、「え、この漢字、こんな形だっけ…？」と、ゲシュタルト崩壊を起こしてました。

■受験生の進捗 最初はみんな猛烈に書き殴る音がありますが、一定の時間が過ぎると、手がとまり「ああ、あそこら辺の問題でみんな苦戦してるな…」と、教室全体の空気感で難易度を肌で感じました。

■「枚数カウント」のプレッシャー 試験終了後、回収した答案用紙の枚数が、欠席者を除いた人数と1枚でも合わないと、全員帰せないのが、必死に数えました。もし合わないと背筋が凍るので、ピッタリだった瞬間は、心の中でガッツポーズしました！（PTA 山下 大輔）



2年生 町探検

2月3日（火）2年生の子どもたちと担任の先生、保護者と地域ボランティアのみなさんと舟渡ホール、志村橋保育園、志村橋児童館へ町探検として訪問してきました。各場所での感想をいただいています。

・舟渡ホールへの町探検に行きました。期日前投票の期間だったため、子どもたちはまだ縁のない投票の様子をのぞき、厳正な雰囲気ヒリッとした様子でした。その後、目の前の小さな公園に行くと緊張が解けたようにみんな笑顔でお話していて可愛かったです。国語



の教科書ででてきた「あなのやくわり」を見つけて盛り上がっていました。（保護者 金子 有美）

・志村橋保育園へ行きました。見学した保育園児と同じように小さかった子どもたちが、園長先生の説明に聞き、メモを取る姿を見られて感慨深かったです。（保護者 浅田 珠貴）

・志村橋児童館を訪問しました。児童館では館長さんが各部屋の用途を説明してくださり、楽しそうに遊ぶ親子連れの様子も見せてくださいました。質問コーナーでは、子どもたちはたくさんの質問をしていました。翌週に小学生向けのイベントがあると聞くと、「友だちと来よう！」と皆、興味津々の様子でした。（地域コーディネーター 江藤 睦実）



3年生 郷土資料館見学

2月5日（木）に3年生は、舟渡小学校から徒歩で都営三田線蓮根駅へ、そして西高島平駅から徒歩で郷土資料館へ行きました。今回は2クラスだったので、スムーズに到着できました。資料館は区内で出土した化石や土器、古文書、民族資料、そして古民家の2つの展示施設があります。

古民家では、入り口の敷居は踏ぐように言われました。座敷では畳の上で使う道具等の説明があり、土間では石臼を回転して大豆から粉にする体験を非常に楽しそうにやっていました。くるくる回し、「あ～粉が出た！」と笑顔で見ている姿は印象的でした。また、薪を「かまど」に入れてもやしていました。私は懐かしい煙の香りでしたが、子どもたちはよくわからなかったようでした。資料館では、展示物の説明文をメモして、気になるものは何度も見ていました。私は子どもの時に、親と買い物に行った帰り、道路標示の石塔に隠れて親を驚かせたこと、その物が置いてあるのを発見して、その場で当時のことを思い出しては、首を上下にしていました。（地域ボランティア 増山 新一）



新1年生 保護者会補助



2月20日（金）の午後、新1年生保護者会が開催されました。ご担当の神林先生からは昨年末からご案内いただいており、その頃は「まだ先のこと」と思っていたのですが、あっという間にこの日を迎えました。

4月から小学校生活をスタートさせる新1年生の保護者の皆さまは、期待とともに多くの不安をお持ちのことと思います。各先生方やPTAの方からの丁寧な説明で、きっと安心されたのではないのでしょうか。

私たちは、会場案内や受付、お子様の漢字のお名前確認、資料のお渡し、ご持参いただいた書類の提出補助、そして一緒に来校したお子様の見守り

など、様々な形でお手伝いをさせていただきました。

新小学1年生の皆さまがご入学される日を、心より楽しみにお待ちしております。（地域コーディネーター 江藤 陸実）

パワーアップ教室

昨年から、なんとなく参加させて頂いた「パワーアップ教室」もいよいよ残りわずかになりました。友だちとおしゃべりしたり、教室に引っ張りだされた文句を言いながらも、回を重ねるごとに段々と集中して問題に取り組めるようになっていき、お手伝いできて良かったと思っています。

先生方も毎回、楽しく、分かりやすくと色々工夫されていて、その熱意に感じ入ることも度々でした。

少しのヒントで、問題がパツ！と分かった瞬間の嬉しそうな顔を見ると、自分までうれしくなります。

どう伝えれば分かりやすいかも一人一人違い、とても勉強になりました。

算数はパズルみたいで、一つ解けると楽しいものなので、あきらめないでちょっとずつでも取り組んでほしいと思います。

年明けからはおしゃべりの中に進級・進学に対する期待や不安がチラチラと見えかくれる時もあり、みんなそれぞれにがんばっているのだなあと、一年の成長ぶりを感しました。

「パワーアップ教室」、今は面倒くさくてもきつといつか役に立ちます。みんながんばれ！（地域ボランティア 久保田しのぶ）



ふなっこ かがやく教室



紫キャベツの紫色は酸性・アルカリ性で色が変化することを知っていますか。昔、pH 試験紙を用いて色々な液体の液性を調べたことのある人も多いでしょう。

4、5年生を中心に舟渡小学校家庭科室にて紫キャベツから色素を抽出し、それを用いて身近な液体のpH 測定をしました。レモンは赤色、酸性だ！お酢も酸性。酸っぱいね！マジックリンはアルカリ性。キンカンはくさ〜い、でもキレイな緑色でアルカリ性だ。みんな様々な発見があったようです。

さあ将来の科学者は何名生まれるかな！お手伝いして頂いた父母の皆さん、ありがとうございました。（地域ボランティア 池田 征明）



6年生 ミシン支援

今回は6年生の布巾作りの見守りをさせていただきました。

この布巾は6年生を送る会で在校生にプレゼントするものとのこと。フェイスタオルを半分に切って2つに折り、ミシンを一筆書きのように動かして、周りとお真ん中のばってんマークを縫っていきます。

布巾はどうせ汚れるものなので、多少のズレやミスを気にせず大雑把に作って平気だよと声掛けしました。すると、普段ミシンに苦手意



識のある子もリラックスして作製できていました。中には3枚も作ってしまう子や、布巾として使うにはもったいなくなるような可愛い飾りを付ける子もいました。在校児童へのメッセージカードを添えて完成。

6年生のみんなが卒業してしまうのは寂しいですが、中学へ行っても頑張ってもらいたいです。（5・2年生保護者 夏川 夏子）